

航空公園いきものガイドウォーク報告書

日時	2026年4月25日(土) 10:00~11:10	天候	晴	担当者	久保
テーマ	ハナミズキとタギョウショウ	参加者	14名	担当者	桑原
観察内容	<p>久保さんが解説を担当し、桑原がアシスタントとして進行しました。今回はグループ分けを行わなかったため、管理事務所からマイクを借りて全体に向けて解説を行いました。園内では、ノダフジやヒラドツツジが見ごろを迎えており、ヤマフジとの見分け方やヒラドツツジの特徴について解説しました。日本庭園ではモウソウチクのタケノコが出ており、タケの成長が非常に早い理由についても紹介しました。</p> <p>花の丘では、見ごろを過ぎようとしている菜の花(セイヨウアブラナ)でしたが、菜の花の前で全員が集合し、「朧月夜」を合唱しました。最後に、今回のテーマであるハナミズキとタギョウショウについて、管理事務所前で解説を行い、全行程を終了しました。</p> <p>〈観察した植物〉</p> <p>ヤマグワ、ノダフジ、ヒラドツツジ、モウソウチク、クロマツ、アカマツ、イチハツ、ヤマブキ、ヤエヤマブキ、シロヤマブキ、オトコヨウゾメ、セイヨウアブラナ、ギョイコウ、ミズキ、タギョウショウ、ハナミズキ</p>				
					
ハナミズキ(花水木)		タギョウショウ(多行松)			
<p>○標準和名はアメリカヤマボウシ</p> <p>○花がミズキよりも美しく目立つことから。</p> <p>○花卉のように見えるのは総苞で、中心の塊が花序</p> <p>○1912年日本からアメリカへ桜の木を約6000本(ワシントンへ3000本、ニューヨークへ3000本)贈った返礼として贈られてきたのがハナミズキ。1915年にアメリカから日本へシロバナハナミズキが40本、1917年にベニバナハナミズキが12本贈られてきた。合計52本。</p> <p>○現在も残っているのは東京都立園芸高校に1本のみである。</p>		<p>○アカマツの園芸品種。クロマツにアカマツを接いで作られる。</p> <p>○多行とは根元付近から生じる多くの幹を表す。</p> <p>○江戸時代安行で作られたとの説がある。</p> <p>○天然のウツクシマツを起源とする同一種とする説もある。</p> <p>○ウツクシマツ(美松)は根元付近から幹が放射状に分かれて上方へ伸びるアカマツの変種で、滋賀県湖南市平松に自生している。1921年(大正10年)に国の天然記念物に指定された。</p>			
<p>今日のコース・雑感</p> <p>・参加者にお子様1名いたので「子供森林インストラクタープロジェクト」のチラシなどを持参しPRするのも良いのではないかと思います。</p>		<p style="color: red; font-weight: bold;">今日歩いたコースは・・・4月25日(土)</p> 			